

パラ水泳リージョナルリンクキャンプ in 青森

～青森から未来のパラスイマーを育む～

本キャンプは、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）の「アスリート育成パスウェイ構築支援事業」予算を活用して実施されるものです。

同事業は、将来のオリンピック・パラリンピックで活躍するアスリートを継続的に育成することを目的に、国内競技連盟（NF）、自治体、関係団体が連携して「育成から強化へつなぐパスウェイ」を構築することを狙いとしています。

日本パラ水泳連盟では、この支援を活用し、地域と連携した新たな育成モデルの一環として「リージョナルリンクキャンプ（地域連携合宿）」を企画しました。

青森県では、2026年に「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（青の煌きあおもり国スポ・障スポ）」の開催を予定しています。これらの大会は、障害者スポーツの普及や地域住民の理解促進の絶好の機会である一方、大会終了後に持続的な取り組みとして根付けることが難しいという課題があります。

そこで日本パラ水泳連盟は、大会開催前から地域と連携し、強化・育成・普及の取り組みを組み込んだ「リージョナルリンクキャンプ」を実施します。本キャンプは、大会を一過性のイベントに終わらせず、地域に「見学→体験→継続参加」の流れを定着させ、将来のパラスイマーを発掘・育成できる基盤を青森県に残すことを目指します。

・事業目的

- *ユース日本代表のパラ水泳選手による強化合宿を公開することで、地域選手・指導者・その他関係者にパラ水泳を身近に感じてもらう機会を創出する。
- *障害児やジュニアスイマー、地域指導者を対象にした体験・交流を通じて、未来のパラスイマー発掘と育成につながる土壌を整備する。
- *行政・水泳協会・地域団体との連携により、地域に根付く持続的な育成環境の基盤をつくる

・期待される効果

- *地域住民にパラ水泳を広く認知してもらうことで、障害者スポーツへの理解促進
- *地域の子供たちや保護者に「将来の目標像」を提示し、競技参加へのきっかけをつくる
- *地域指導者対し、障害のある選手を受け入れる際の指導視点や配慮を学ぶ機会を提供
- *行政・水泳協会・福祉団体と連携し、持続的にパラスイマーを発掘・育成できる仕組みを構築